

# 茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和元年(2019年)9月

## 1 東京都中央卸売市場(2019年1-8月)の青果物取扱高について

① 全体の入荷量は約123万tで、前年比1%増、金額は約3,470億円で前年比8%減となった。

② 茨城県産の入荷量は約15万tで、前年並、金額は約352億円で前年比10%減となった。

(金額の内訳は、野菜約283億円、果実約69億円。前年同期比で野菜12%減、果実2%減、平年同期比で野菜10%減、果実1%増)  
 金額が【増加】した品目(前年対比)：レタス類(108%)、かんしょ(104%)、いちご類(105%)  
 金額が【減少】した品目(前年対比)：はくさい(43%)、みず菜(73%)、こまつな(82%)、メロン類(95%)

茨城県の青果物入荷量は平年比1%減(シェア11.8%)、取扱金額は同8%減(シェア10.1%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1-8月計)			
	1-8月計	年間計	年間比	1-8月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	2019	1,233,557		145,641	←シェア(11.8%)		11.7%	7.6%	3.5%	
	H30	1,224,309	1,907,279	64.2	145,053	225,946	64.2	11.6%	7.8%	3.7%
	(前年比)	101			100	シェア(11.8%)				
	平年値※	1,271,084	1,978,757	64.2	146,518	228,350	64.2			
(平年比)	97			99	シェア(11.5%)					
金額	2019	347,002		35,201	←シェア(10.1%)		7.9%	4.3%	6.6%	
	H30	375,495	568,808	66.0	39,315	56,745	69.3	8.3%	4.1%	6.2%
	(前年比)	92			90	シェア(10.5%)				
	平年値※	369,250	563,980	65.5	38,199	57,101	66.9			
(平年比)	94			92	シェア(10.3%)					

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成26～30年の5カ年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》  
 平成30年実績  
 (1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.0%)、数量シェア(11.8%)  
 千葉県：金額シェア(7.8%)、数量シェア(11.0%)  
 北海道：金額シェア(6.1%)、数量シェア(10.7%)  
 栃木県：金額シェア(5.8%)、数量シェア(3.4%)

## 2 東京都中央卸売市場(令和元年8月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

( )内は前年対比

野菜類の入荷量は約7.8千トン(106%)、単価は322円(84%)、金額は約25.0億円(89%)

果実類の入荷量は約2.4千トン(99%)、単価は376円(108%)、金額は約9.1億円(107%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26～30年同月の5カ年平均値との比率

	品目	数量(t)				単価(円/kg)				金額(千円)		
			前年比	平年比	平年比(全国比)		前年比	平年比	平年比(全国比)		前年比%	平年比
野菜	ねぎ	1,542	121%	114%	103%	225	60%	76%	85%	347,385	73%	87%
	れんこん	400	75%	81%	83%	594	114%	108%	107%	237,787	85%	87%
	ピーマン	479	134%	132%	111%	389	76%	109%	102%	186,324	101%	144%
	みず菜	384	87%	79%	77%	453	105%	119%	118%	173,914	91%	94%
	野菜総計	7,771	106%	101%	102%	322	84%	98%	93%	2,501,337	89%	99%
果実	日本なし類	2,078	103%	98%	91%	383	111%	111%	111%	796,181	114%	109%
	果実総計	2,433	99%	98%	94%	376	108%	108%	109%	914,254	107%	105%

(野菜)

7月の長雨からの8月の高温、台風等による強風などの影響で、品質低下や生育遅延のため数量減となった品目も見られたが、野菜類全体としては猛暑のため数量の少なかった前年および平年を上回る結果となった。

本県産のねぎは、面積増加と7月の収穫が遅れた分もあり、8月は数量が増えたが、単価が大幅に下がったため金額は前年を下回った。

(果実)

関東近県では、長梅雨の影響で日本なし類で小玉傾向となったほか、ぶどう類は生育が遅れ入荷量が減少し、果実全体で単価高傾向となった。

本県産の日本なし類は8月盆前に出荷ピークを迎えたが、小玉傾向のため数量は前年をやや上回る程度であった。果実全体の数量減・単価高傾向により、果実類の中では比較的量のあった日本なし類への引き合いが強まり、盆明け後も単価は大きく下がることなく推移し、金額を伸ばした。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出